

# 特許協力条約

PCT

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）  
〔PCT36条及びPCT規則70〕

REC'D 02 JUN 2005

WIPO

PCT

出願人又は代理人 の書類記号 HP197	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JP03/04069	国際出願日 (日.月.年) 31.03.2003	優先日 (日.月.年)
国際特許分類 (IPC) Int.Cl. <sup>7</sup> D02G3/38		
出願人 (氏名又は名称) 廣田 雄祐		

<p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 4 ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a. <input checked="" type="checkbox"/> 附属書類は全部で 2 ページである。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）</p> <p><input type="checkbox"/> 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b. <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）</p>	
<p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p>	

国際予備審査の請求書を受理した日 30.08.2004	国際予備審査報告を作成した日 11.05.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 平井 裕彰	4S 9633
電話番号 03-3581-1101 内線 3474		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、\_\_\_\_\_ 語による翻訳文を基礎とした。  
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査  
☐ PCT規則12.4にいう国際公開  
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に回答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☐ 出願時の国際出願書類

☒ 明細書

第 1-16 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 請求の範囲

第 4、6、7 \_\_\_\_\_ 項、出願時に提出されたもの  
第 1-3、5、8-10、13 \_\_\_\_\_ 項\*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ 項\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☒ 図面

第 1/4-4/4 \_\_\_\_\_ ページ、出願時に提出されたもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの  
第 \_\_\_\_\_ ページ/図\*、 \_\_\_\_\_ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☒ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☒ 請求の範囲 第 11、12 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 \_\_\_\_\_ ページ  
☐ 請求の範囲 第 \_\_\_\_\_ 項  
☐ 図面 第 \_\_\_\_\_ ページ/図  
☐ 配列表(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_  
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) \_\_\_\_\_

\* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、  
それを裏付ける文献及び説明

## 1. 見解

新規性(N)

請求の範囲 1-10、13

有

請求の範囲

無

進歩性(IS)

請求の範囲

有

請求の範囲 1-10、13

無

産業上の利用可能性(IA)

請求の範囲 1-10、13

有

請求の範囲

無

## 2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1: JP 5-179535 A

文献2: JP 11-1835 A

・請求の範囲1-10、13について: 文献1、2

文献1には、酸化チタンを含有する合成繊維と、天然繊維とからなる繊維材料(請求の範囲、0011)、及び、合成繊維として、ポリエステル繊維やナイロン繊維を採用すること(0011)が記載されている。

文献2には、天然繊維と、酸化チタンを含有するポリエステル繊維とからなる繊維材料が記載されている(請求の範囲、0011)。

文献1、2には、天然繊維として、絹や獣毛繊維を採用することについての記載は特にないものの、これらの繊維は、綿や麻やレーヨン等の天然繊維と同様の効果を奏するものとして、広く採用されるものにすぎず、

(なお、この点について、必要ならば、

JP 4-257333 A

請求項3

WO 01/88237 A

請求項4

JP 2002-275736 A

請求項2

を参照のこと。)

また、酸化チタンと絹繊維とを組み合わせることは、出願人自身も明細書の背景技術において先行技術文献を提示した上で認めているように、当業者にとって、周知の技術にすぎない。

そうであってみれば、文献1、2に記載された発明において、天然繊維として、代表的な素材にすぎず、綿等の天然繊維と同様の効果を奏するものとして広く採用され、かつ、酸化チタンと組み合わせることも周知にすぎない、上記2種の繊維を単に採用することは、当業者が容易になし得ることである。

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

そして、上記2種の繊維を選択したことによる効果について検討しても、明細書には、上記2種の繊維を採用することの優位性に関する記載があるとはいえず、また、酸化チタンを合成繊維に含有させることは、文献1、2に具体的に開示されており、さらに、酸化チタンが黄変を防ぐことは、出願人自身も認めているように、周知の事項にすぎないといえ、特有の格別な効果を奏するものであるとはいえない。

## 請 求 の 範 囲

1. (補正後)少なくとも酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維と絹繊維及び／又は獣毛繊維とからなり、これら繊維が相互に接触する形態で存在することを特徴とする、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
2. (補正後)前記繊維材料は、酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維と絹繊維及び／又は獣毛繊維とから紡いで作られた糸である請求項1記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
3. (補正後)前記繊維材料は、酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維からなる芯糸の外表面に、絹繊維及び／又は獣毛繊維からなる鞘糸を巻き付けて作られた複合糸であることを特徴とする請求項2記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
4. 前記複合糸は、前記芯糸が実質露出しない状態で前記鞘糸が前記芯糸に巻き付けられていることを特徴とする請求項3記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
5. (補正後)前記繊維材料は、酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維からなる糸と絹繊維及び／又は獣毛繊維からなる糸とを互いに撚り合わせて作られた撚り糸である請求項2記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
6. 前記繊維材料は、布を構成する糸の少なくとも一部において、請求項2記載の糸、請求項3若しくは4記載の複合糸又は請求項5記載の撚り糸を使用して織られた織布である請求項1記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
7. 前記繊維材料は、布を構成する糸の少なくとも一部において、請求項2記載の糸、請求項3又は4記載の複合糸又は請求項5記載の撚り糸を使用して編成された編物である請求項1記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。
8. (補正後)前記繊維材料は、酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維からなる糸を織布の中間材の経糸及び／又は緯糸に用い、該中間材にその上方及び下方より絹繊維及び／又は獣毛繊維からなる糸を該中間

材を覆い隠すように織り込んで作られた織布である請求項6記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。

9. (補正後) 前記繊維材料は、酸化チタンを含有するポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維の糸を用いて織られた布と、その上下両側に重ね接結させた、絹繊維及び／又は獣毛繊維の糸を用いて織られた布とからなるサンドイッチ構造布である請求項1記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。

10. (補正後) 前記ポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維には、繊維全重量に基づいて0.01ないし5.0重量%の酸化チタンが含有されている請求項1ないし9のうちいずれか1項記載の、改良された被服要求品質を有する繊維材料。

11. (削除)

12. (削除)

13. (補正後) 少なくとも酸化チタンを含有したポリアミド系繊維及び／又はポリエステル系繊維と絹繊維及び／又は獣毛繊維とを用いて、これら繊維が相互に接触する形態で存在するように繊維材料を構成することにより、繊維材料の被服要求品質を改良する方法。